

降下時の飛行 データ取得成功

大樹でJAXA

【大樹】独立行政法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）は、25日に大樹航空宇宙実験場で行った大気突入システムの実験で、膜面エアロシエルを展開して降下していく一連の飛行データの取得に成

功した。

実験グループはJAXAや東京大、青山学院大などで構成。今回は今年度第2次気球実験の1基目で、飛行体が宇宙から地球などに大気突入する際に受ける熱を、緩和するシステムの開発を目指している。円すい状の膜面エアロシエルを展開することで熱を抑える。

JAXA宇宙科学研究本部大気球実験班によると、最大膨張時に体積5000立方センチメートルの大気球が、膜面エアロシエルなどの機器をつり下げて毎分300メートル上昇。放球から約2時間50分後に上空で同エアロシエルを展開させ、超音波で機器を気球から切り離し、降下時の画像や飛行データを得た。（佐藤圭由）